

V. 修学旅行経験者を対象としたモニターツアーの実施

1. 沖縄への修学旅行経験者を対象とした実証事業（モニターツアー）

1-1. 事業の目的

(1) 事業の背景

前章の試算結果によれば、沖縄への修学旅行経験者数は昭和 50 年から平成 24 年の 38 年間の累計で 670.4 万人にまで拡大している。沖縄県への入域客数に占めるリピーターの割合が年々増加し平成 23 年度で 79%となっていることを踏まえると、修学旅行を通じて沖縄への来訪を経験しているこの 670 万人は潜在的な有望市場であり、彼らの再訪をいかに促進するかは沖縄観光リピーターの創造・定着を図る上で重要な課題である。

以上の点を踏まえ、沖縄県への修学旅行経験が同地への再訪意向や現在の旅行実態に及ぼす影響等を定性的に把握し、修学旅行経験者の沖縄再訪促進に向けた手がかりを得ることを目的に、モニターツアーを実施した。

1-2. 事業内容

(1) 概要

ツアー名	あの時の仲間ともう一度！ 修学旅行プレイバック 2泊3日
催行期日	平成 25 年 2 月 23 日(土) から 25 日(月)
参加者	沖縄への修学旅行経験者 25 人
旅程概要	2 月 23 日(土) ・羽田空港→那覇空港→アメリカンビレッジ→海洋博公園沖縄美ら海水族館 2 月 24 日(日) ・選択制ツアー（ホエールウォッチング／ガイドとめぐる久高島） 2 月 25 日(月) ・終日自由行動（レンタカー／観光タクシー）→那覇空港→羽田空港 ※詳細は別頁参照
備考	参加者に対し、アンケート調査（事前、ツアー 2 日目、3 日目各 1 回の計 3 回）及びグループインタビュー（ツアー最終日 1 回）を実施

図表 V-1-1 募集用チラシ

あの時の仲間ともう一度!

修学旅行プレイバック

2泊3日







◆旅行期日：平成25年 2月23日(土)～25日(月)

◆旅行代金： 大人お一人様 29,800円
(ツイン2名様1室利用)
※1名様1室利用追加代金(お一人様):19,800円

◆募集人員：30名様 ★先着順(最少催行人員:15名様)

◆応募条件：修学旅行で沖縄県に訪れたことのある平成5年3月以前生まれの方。
※当ツアーが沖縄県が同県を再訪して下さるお客様の創出を目的として実施する事業の一環として行われるモニターツアーであることをご理解の上、各種アンケート(事前送付、ツアー最終日各1回を予定)及び意見交換会等にご協力いただける方。
 ※当ツアーのモニターに対する報酬はございません。

◆食事条件：朝食2回・昼食2回・夕食2回(軽食1回)

◆添乗員：出発地より全行程同行します。
(選択制ツアー・自由時間を除く)

◆利用航空会社：日本航空 ※普通席

**◆利用ホテル：名護市/オキナワマリOTTリゾート&スパ
 那覇市/ロワジュールホテル 那覇**

◆申込金：6,000円(旅行代金に充当します)

◆申込締切日：平成25年1月25日(金)



海洋博公園
沖縄美ら海水族館

当ツアーは、沖縄県が実施している「戦略的リピーター創造事業」の一環として実施するモニターツアーです。
(事業実施主体:沖縄県、受託者:公益財団法人日本交通公社)

旅行企画・実施 株式会社 JTBコーポレートセールス
(旧社名:株式会社 JTB法人東京)

図表 V-1-2 募集用チラシ（裏面）

日次	船(機)	行 程	食事	宿 泊
1	2/23 (土)	JAL905便 専用バス 羽田空港 → 那覇空港 → アメリカンビレッジ → 海洋公園沖縄美ら海水族館 8:40 11:35 12:15 〔登食:選択制〕 ★沖縄到着後、車中にてモニターツアーの趣旨を説明いたします。 ★昼食選択制:アメリカンビレッジ付近のレストラン又はビーチバーベキューを事前にお選びいただけます。 ★夕食は、ホテルにてご用意いたします。	朝:ー 昼:○ 夕:○	オキナワマリオート リゾート&スパ 名護市真美1490-1 TEL.0980-51-1000
2	2/24 (日)	専用バス ホテル → 古宇利島 → 名護市内 → 那覇市(泊) 9:30 18:00 〔ツアー:選択制〕 A.ホエルウォッチング C.ガイドとめぐる久高島 B.神村酒造工場見学 D.国産酒りのワキ道ガイドと自由時間 ★昼食は、名護市内にてご用意いたします。 ★ツアー選択制:参加者には第3希望までご旅行出発前に伺ったうえで、上位2ツアーを旅行いたします。 ★ツアーB「神村酒造工場見学」は成年者のみ参加可能となります。 ★ホテル到着、チェックイン後解散(自由時間)、夕食は各自でお召し上がりいただけます。 ご希望により民謡酒場やその他レストランをご紹介する事が可能です。	朝:○ 昼:○ 夕:ー	ロワジュールホテル 那覇 那覇市西3-1-1 TEL.098-868-2222
3	2/25 (月)	ホテル 【終日自由行動】 (選択制) A.観光タクシー利用 B.レンタカー利用 那覇空港 → 羽田空港 9:00 16:30 19:00 21:10 JAL922便 ★選択制:事前にグループにて観光タクシー利用又はレンタカー利用をお選びいただけます。(朝9:00~) レンタカーのガソリン代は各自ご負担ください。(車種のご指定はできません。) ★昼食は、各自でお召し上がりください。 ★夕食は、那覇空港にて軽食をご用意いたします。 ★空港到着後、意見交換会・アンケート記入の時間を設定しております。	朝:○ 昼:ー 夕:○(軽食)	

※この行程表は予定であり、天候・交通事情またはその他の理由により変更になることもございますので予めご了承ください。
◎記入例 / 専用バス、→ 航空機

ご旅行条件(要約) お申し込みの際は、必ず旅行条件書(全文)をお受け取りいただき、事前に内容をご確認の上、お申し込みください。

●募集型企画旅行契約
この旅行は「株式会社JTBコーポレートセールス(東京都新宿区西新宿3-7-1 観光庁長官登録旅行業第1767号、以下「当社」という)が企画・実施する旅行であり、この旅行に参加されるお客様は当社と募集型企画旅行契約(以下「旅行契約」という)を締結することになります。出発前にお申し込みを最終日程と物する確定書面及び当社旅行契約募集型企画旅行契約の部になります。

●旅行のお申し込み及び契約成立
(1) 前記の申込書に所定の事項を記入し、下記のお申込金を添えてお申し込みください。
お申込金は、旅行代金をお支払いの際、差し引かせていただきます。
(2) 電話、郵便、ファクシミリその他の通信手段でお申し込みの場合、当社が予約の承諾の通知した翌日から起算して3日以内に申込書の提出と申込金の支払いをさせていただきます。
(3) 旅行契約は、当社が契約の締結を承諾し、申込書を受領したときに成立するものとします。
(4) お申込金(おとり) 6,000円

●旅行代金のお支払い
旅行代金は旅行出発日の前日からお支払いの期は13日以内(前)にお申し込みが契約の場合は当社が指定する期日までにお支払いください。また、お客様が当社提携カード会社のカード会員である場合、お客様の署名をなして旅行代金、取消料、追加諸費用などをお支払いいただくことができます。この場合のカード利用日は、お客様からお申し込みがない限り、お客様の承認日といたします。

●取消料
旅行契約成立後、お客様の都合で契約を解除されるときは、次の金額を取消料として申し受けず。

旅行開始日の前日	契約解除の日	取消料(お1人様)
旅行開始日の前日から起算しておきがけ	1. 21日以内(前)の日以前(日曜)旅行にあっては11日(前)	無 料
おきがけ	2. 20日(日曜)旅行にあっては10日(前)にまたは10日(前)の解除(3-6日(前))	旅行代金の20%
おきがけ	3. 7日以内(前)の日以前(日曜)旅行にあっては6日(前)	旅行代金の30%
4. 旅行開始日の前日の解除	旅行代金の40%	
5. 当日の解除(6を除く)	旅行代金の50%	
6. 旅行開始後の解除又は無連絡不参加	旅行代金の100%	

●旅行代金に含まれるもの
旅行日程に明示した運送機関の運賃・料金(注釈のないが)エコノミークラス)、宿泊費、食事代、旅行取組料金及び消費税等諸料。これらの費用は、お客様の都合により一部利用されなくてもも帰国して払い戻ししません。(コースに含まれない交通費等の諸費用及び個人的費用は含まれません。)

●特別補償
当社は、当社又は当社が手配を代行させた者の故意又は過失の有無にかかわらず、募集型企画旅行契約が特別補償制度に基づき、お客様の都合で募集型企画旅行参加中に急激かつ偶然な外来の事故により、その身体、生命又は財産上に被った一定の損害について、以下の金額の範囲において、補償金又は賠償金を支払います。
・死亡補償金:1500万円 ・入院見舞金:20万円 ・通院見舞金:1~5万円
・旅行品損害補償金:お客様1名につき15万円(但し、補償対象品1個あたり10万円を限度とします。)

●「遺留契約」を希望されるお客様との旅行条件
当社提携クレジットカード会社のカード会員(以下「会員」といいます。)より「会員の署名をなして旅行代金や取消料等の支払いを受けること(以下「遺留契約」といいます。))を条件にお申し込みを受けた場合、通常の旅行条件とは以下の点で異なります。(※旅行業者による当該取組ができない場合があります。また取組できるカードの種類も受託旅行業者により異なります。)
(1) 契約成立は、当社が電話又は郵便で旅行契約の締結の承諾通知を発信したとき(e-mail等電子承諾通知を利用する場合は、その通知がお客様に到達したとき)とします。また申込時には「会員番号・カード有効期限」等も通知して頂きます。
(2) 「カード利用日」とは旅行代金の支払い又は払戻し債務を履行すべき日をいいます。旅行代金のカード利用日は「契約成立日」とします。また取消料のカードの利用日は「契約解除後日」とします。(ただし、契約解除後日旅行代金のカード利用日以降であった場合は、当社は旅行代金から取消料を差し引いた額を解除後日の翌日から起算して7日以内をカード利用日として払い戻します。)
(3) 存続等の理由により会員のお申し出のクレジットカードでのお支払いがでない場合、当社は通信契約を解除し、確定の取消料と同額の返送料を申し受けます。ただし、当社が別途指定する期日までに現金による旅行代金の支払いをいただいた場合はこの限りではありません。

●国内旅行保険への加入について
旅行先において、けがをした場合、多額の治療費、移送費等がかかることがあります。また、事故の場合、加害者への損害賠償請求や賠償金の回収が大変困難であるのが実情です。これらの治療費、移送費、また、死亡・後遺障害等を保障するため、お客様自身で充分な額の国内旅行保険に加入することをお勧めします。詳細については、販売店の係員にお問合せください。

●事故等のお申し出について
旅行中に、事故などが生じた場合は、直ちに同行の運賃員・現地係員・運送・宿泊機関等旅行サービス提供機関、又は、お申込店にご通知ください。(但し、通知できない事情がある場合は、その事情がなくなり次第ご通知ください。)

●個人情報の取扱いについて
(1) 当社及び販売店または企画協力会社は、旅行申込の際に提出された申込書等に記載された個人情報について、お客様との間の連絡のために利用させていただきます。お客様がお申し込みいただいた旅行において運送・宿泊機関等の提供するサービスの手配及びこれらのサービスの受領のために手続に必要な範囲内で利用させていただきます。
(2) 当社は、旅行先でのお客様のお買い物の便宜のため、当社の保有するお客様の個人情報と土産物店に提供することがあります。この場合、お客様の氏名及び提供される航空券名等に添える個人情報をおらかじめ電子的方法等で送付することによって提供いたします。なお、これらの個人情報の提供の停止を希望される場合は、お申込店に出发前までにお申し出ください。

●旅行条件・旅行代金の基準
この旅行条件は2012年12月1日を基準としています。又、旅行代金は2012年12月1日現在の有効な運賃・規則を基準として算出しています。

旅行企画・実施

株式会社JTBコーポレートセールス
(旧社名:株)JTB法人東京
観光庁長官登録旅行業第1767号
〒163-1065 東京都新宿区新宿3-7-1
一般社団法人日本旅行業協会正会員
旅行業公正取引協議会会員

お申し込み・お問い合わせ先

株式会社JTBコーポレートセールス
(旧社名:株)JTB法人東京
本社営業部 教育第2事業部
〒163-1065 東京都新宿区新宿3-7-1
TEL.03-5909-8015 FAX.03-5909-8020
営業時間:月~金/9:30~17:30(土・日・祝日休業)
総企画旅行業務取扱管理者:柏森 栄一 担当:河内 新

募集型企画旅行契約書とは、お客様が旅行を取り組む期間での旅行に関する責任者です。この旅行契約に同意し、出発前からの説明にご不明な点がなければ、ご遠慮なく上記の取扱管理者にお尋ねください。

(2) ツアー企画

本事業の一環として行った「沖縄修学旅行経験者調査」によれば、沖縄県への修学旅行経験者のうち、修学旅行をきっかけに「修学旅行で訪れた施設をもう一度訪れたいと思った」という項目について「当てはまる」と答えた人は 22.4%に留まり、「修学旅行で巡ったコースをもう一度巡ってみたいと思った」や「修学旅行で実施した活動や体験をもう一度してみたいと思った」についても「当てはまる」はそれぞれ 20%弱となっている。そのため、本モニターツアーの企画に当たっては、修学旅行の旅程に組み込まれることの多い地域や施設ではなく、一般的に人気の高い立ち寄り先を軸に行程を組み立てることとした。

また、行程の違いが参加者の満足度や再訪意向に及ぼす影響を検証するため、初日をバスによる団体ツアー、2日目を選択式ツアー、3日目を自由行動とした。

図表 V-1-3 旅程

日次	月日 (曜)	行程	食事	宿泊
1	2月23日 (土)	8:40 JAL905 羽田空港 12:15 那覇空港 ----- アメリカンビレッジ ----- 14:15 美ら海水族館 ----- 17:15 ホテル 11:35 13:00 15:45 18:15 ●沖縄到着後、車中にてモニターツアーの趣旨を説明 ●昼食は「ザ・ビーチタワー1Fレストラン」又は「サンセットビーチバーベキュー」選択制 ●夕食はホテルにて準備	朝食:× 昼食:○ 夕食:○	【名護】 オキナワ マリriott リゾート& スパ
2	2月24日 (日)	9:30 11:00 12:40 (選択制) ホテル ----- 古宇利島 ----- 名護市内 ----- ホールウキツチング ----- ホテル 10:30 11:40 ガイドとめぐる久高島 18:00 ●昼食は「百年古屋 大塚」 ●夕食はホテルチェックイン解散後各自(希望者には民謡居酒屋等を紹介)	朝食:× 昼食:○ 夕食:○	【那覇】 ロフジー ルホテル 那覇
3	2月25日 (月)	9:00 19:00 JAL922 ホテル ----- 自由行動 ----- 那覇空港 羽田空港 16:30 21:10 ●自由行動時の移動は観光タクシー又はレンタカー ●昼食は各自 ●空港到着後、意見交換会・アンケート記入	朝食:○ 昼食:× 夕食:軽食	

(3) ツアー催行

① 第1日(羽田空港～那覇空港～アメリカンビレッジ～美ら海水族館～ホテル)

那覇空港に到着後、参加者は専用バスにて昼食会場となるアメリカンビレッジに移動した。バスの車内では参加者に対しモニターツアーの趣旨説明を行った。参加者の表情は一様に明るく、修学旅行当時の思い出や3日目の自由行動の行程について話をする姿が見られた。



▲バス車内の様子



▲アメリカンビレッジでの昼食

昼食は、buffetスタイルのレストランでの食事とビーチバーベキューの選択制とした。レストランでは、タコライスやラフテー等の沖縄料理、カレー、寿司、デザートバイキングなどバラエティ豊かなメニュー構成とし参加者からも好評を得た。またビーチバーベキューは天候にも恵まれ、参加者からは「東京に比べて気温が高く海風が丁度心地よい」、「海を見ながらのバーベキューは気持ちよかった」等の感想が寄せられた。



▲メニュー豊富なbuffetスタイル



▲天候に恵まれたビーチバーベキュー

昼食後は、再びバスにて海洋博公園美ら海水族館へと向かった。20代の参加者の多くは修学旅行でも同館を訪れており「懐かしい」、「目にして初めて美ら海水族館に来たことを思いだした」などの声があがった。また中には「修学旅行の際はゆっくり見られなかったので、今回のモニターツアーの行程に含まれているのを知ったときは嬉しかった」との意見も聞かれた。

なお、美ら海水族館の館内見学については自由行動形式とした。参加者は皆興奮した面持ちで見学を楽しんでいた。



▲写真撮影に興じる参加者

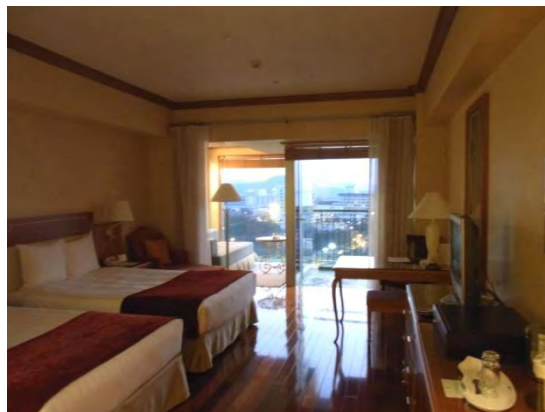


▲ジンベイザメを前に足を止める参加者

美ら海水族館を見学した後、一行は第1日の宿泊先であるオキナワマリオットリゾート&スパに向かった。ホテル到着後に施設の案内を行い、解散とした。夕食は、館内にある和食、洋食、中華、鉄板焼きの各レストランの中から1つを選ぶ方法とした。



▲到着後ロビーにて館内の施設説明



▲参加者が利用した部屋（ツインタイプ）

② 第2日（ホテル～古宇利島～名護市～選択制ツアー～ホテル）

ホテル出発後、バスにて古宇利島に向かった。2日目も天候に恵まれ、古宇利大橋通過の際は美しい海の色に歓声が上がった。古宇利島に到着後はフリータイムとし、参加者は足まで海に入って記念撮影を行ったり、道の駅で特産品を購入したりと思い思いの時間を過ごした。



▲ビーチにて足まで海に入る参加者



▲道の駅でアイスクリームを購入する参加者

2日目の昼食会場には名護市内の「百年古屋大家」を設定した。参加者は沖縄の伝統的な古民家で味わう沖縄料理を楽しんだ。



▲県内の古民家を移築



▲沖縄料理を楽しむ参加者

昼食後は、選択制のツアーとした。募集時に「A.ホエールウォッチング」、「B.神村酒造工場見学」、「C.ガイドとめぐる久高島」、「D.国際通りのワキ道ガイドと自由時間」の4プランを提示した上で希望を募り、申込者数の多かった「A.ホエールウォッチング」と「C.ガイドとめぐる久高島」を催行した。

ホエールウォッチングは本部港からの往復3時間強の行程を設定した。当日午前までは強風で波も高かったが、午後には風も治まり、絶好のホエールウォッチング日和となった。また2月は1年で最もクジラの遭遇率が高い時期であり、参加者の期待も非常に高かった。

出航後1時間ほどで前方に2頭のクジラが現れ、参加者からは大きな歓声が上がった。ブローと呼ばれる水しぶきを上げる姿のほか、あまり見ることでできないペックスラップと呼ばれる行動(横向きになり長い胸びれを水面に打ちつける)も見ることができ、「大迫力で非常に興奮した」、「こんなに長い時間見られるとも思わなかった。また来たい」など参加者も一様に満足した様子だった。



▲ペックスラップ



▲クジラを撮影する参加者

一方、ガイドとめぐる久高島ツアーについては、当初は全行程ガイド同行の予定としていたが、参加者からの希望により、冒頭の1時間をガイド同行、後半1時間を自由時間とした。

前半部分では、ガイドより島の歴史や住民の暮らしなどについての説明が行われ、参加者は熱心に耳を傾けていた。参加者からは「ガイドさんが地元の人でも久高島にはなかなか来られないと言っていたが、そんな貴重な場所に来られて良かった」、「ホエールウォッチングはいつでも行けそうだが、久高島はこういう機会でないといけない」、「何もない島の風景が何よりも印象深かった」といった感想が寄せられた。

後半の自由時間では、参加者は徒歩やレンタサイクルで島内を散策した。パワースポットとして知られていることもあり、女性を中心に熱心に写真を撮影する姿が目立った。



▲海辺でガイドの説明を聞く参加者



▲島内を散策する参加者

選択制ツアー終了後はグループ毎にバスにて那覇市内のホテルへ戻った。

2日目の夕食は参加者が各自でとることとした。中にはガイドブックに掲載されたレストランへの行き方をホテル従業員に尋ねる参加者もいた。

③ 第3日（終日自由行動～那覇空港～羽田空港）

3日目はレンタカーまたは観光タクシーを利用した自由行動とした。なおモニターツアーの効果測定を行うため、那覇空港に到着後、アンケート記入及びグループインタビューを行った。



▲レンタカーで出発する参加者



▲観光タクシーで出発する参加者

図表 V-1-4 参加者の行程（ツアー中に実施したアンケートより）

グループ	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
性別・人数	女性2名	男性3名	男性1名 女性2名	女性2名	男性2名	男性1名 女性1名	男性3名	女性3名	男性1名 女性1名	男性1名 女性1名
交通手段 選択理由	【観光タクシー】 運転したくな かったため	【観光タクシー】 飲酒運転をし てしまう可能性 があるため(レ ンタカーの場 合)	【観光タクシー】 お酒が飲める から	【レンタカー】 理由なし	【観光タクシー】 運転になれて いる者がいな いため	【レンタカー】 知人に会いに 行くため	【レンタカー】 自由に行動で きるから、リ ゾート地のドラ イブを楽しみた いから	【レンタカー】 運転したかった	【レンタカー】 沖縄の素晴らしい 景色を楽し みながらドライ ブしたいから	【レンタカー】 アルコールが 飲める
行程	おぎまサンサン ビーチ ↓ café 風樹	未定(那覇市 内観光) ↓ 国際通りでお 土産の購入 ↓ サイクリング ↓ パイナップル畑 の観光 ↓ 伝統工芸	ひめゆりの塔 ↓ 首里城 ↓ おきなわワー ルド	未定(那覇市 内観光) ↓ 国際通りでお 土産の購入 ↓ サイクリング ↓ パイナップル畑 の観光 ↓ 伝統工芸	斎場御嶽散策 ↓ ガンガラーの谷 散策 ↓ おきなわワー ルド見学	国際通り市場 ↓ ANAインターコ ンチネンタル万 ↓ トロピカルビー チ ↓ アウトレット	公設市場 ↓ 斎場御嶽 ↓ ひめゆりの塔 など、南部観光 ↓ アウトレット	万座毛 ↓ タコライス(宜 野湾市) ↓ (時間に余裕あ れば首里城) ↓ 車返して国際 通りでお土産	11:00 沖縄 ワールド ↓ 12:30 新原 ビーチ ↓ 14:00 DFS	国際通り(散 策、買い物) ↓ 海辺(散策)
備考		グループ4と行 動	順不同	グループ2と行 動						

(4) 事前アンケート調査

本モニターツアーの参加者を対象に事前アンケート調査を行った。

調査方法	郵送にて調査票を事前送付し、ツアー初日に回収
調査項目	<ul style="list-style-type: none"> ・修学旅行の内容、満足度、現在の位置づけ、印象に残っていること ・修学旅行以降の沖縄への旅行経験 ・モニターツアーで楽しみにしていること、同行者との関係性 ・性別、年代、職業塔の属性
調査対象	モニターツアー参加者
回収数	25人

① アンケート結果

性別は無回答の1人を除き「男性」、「女性」が12人ずつで同数となった。また、年代では「20代」が12人と最も多く、次いで「30代」、「40代」となった。職業については、「大学生・専門学校生」が9人と最も多く、「会社員」、「自営業」がこれに続いている。

修学旅行時に在籍していた学校の所在地では、最多の「東京都」が15人、次いで「神奈川県」が4人、埼玉県が3人となっており、人口規模の大きい南関東が大半を占める結果となった。

国公立の分類では、私立が18人、公立が7人となった。また「無回答」1人を除き、全員が「高等学校」に在籍時に修学旅行で沖縄を訪れたと回答した。修学旅行に行った際の学年は「2年生」が最も多かった。

一方、修学旅行に行った時期については、参加者の多くが若年層であったため2000年代以降

が多く、月別では「12月」が7人、「1月」が5人となっている。

図表 V-1-5 回答者属性（性別・年代・職業）

		回答者数(人)			回答者数(人)
性別	男性	12	職業	大学生・専門学校生	9
	女性	12		会社員	7
	無回答	1		自営業	2
年代	10代	2		自由業	2
	20代	12		会社役員	1
	30代	8		公務員	1
	40代	3		派遣社員	1
	50代	0		パート・アルバイト	1
	60代以上	0		専業主婦・専業主夫	1
				無職	0

図表 V-1-6 修学旅行時に在籍していた学校

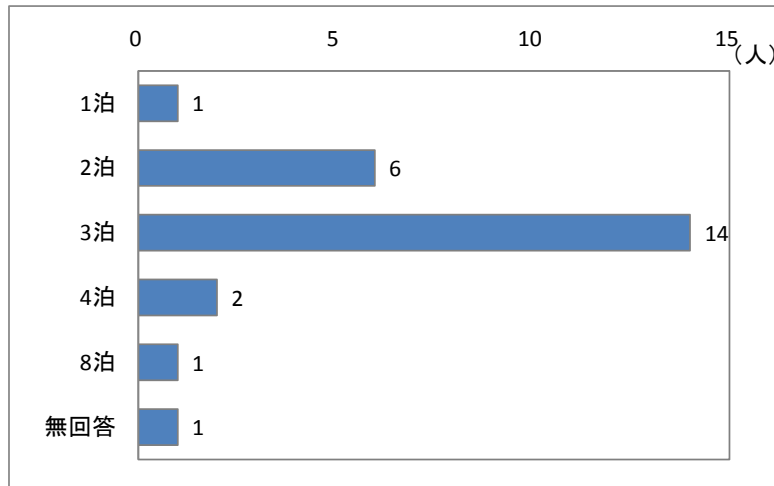
		回答者数(人)			回答者数(人)
所在地	東京都	15	区分	小学校	0
	神奈川県	4		中学校	0
	埼玉県	3		高等学校	24
	群馬県	1		その他	0
	富山県	1		無回答	1
	大分県	1		学年	1年生
	国・公・私	国立	0		2年生
公立		7	3年生		7
私立		18	無回答		1

図表 V-1-7 修学旅行の時期

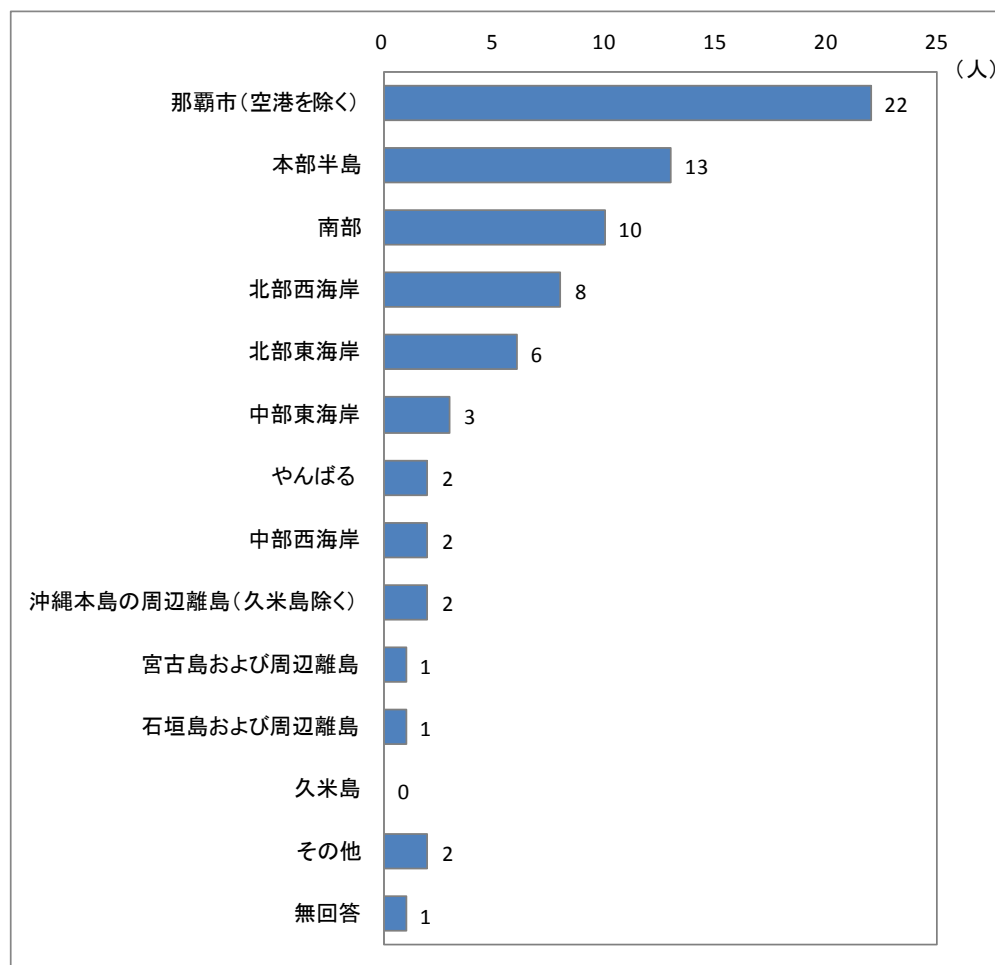
		回答者数(人)			回答者数(人)
年代	1980年代	1	月	1	5
	1990年代	9		2	1
	2000年代	11		3	3
	2010年代	2		4	0
	無回答	2		5	0
				6	2
				7	0
				8	0
				9	0
				10	4
				11	1
				12	7
				無回答	2

修学旅行の泊数は「3泊」と「2泊」が合わせて20人と大半を占め、訪問先については「那覇市（空港を除く）」や「本部半島」、「南部」などが上位になっている。これらは「沖縄修学旅行経験者調査」とほぼ同様の結果であり、本モニターツアー参加者が経験した沖縄への修学旅行の様子が標準的なものであったことがうかがえる。

図表 V-1-8 修学旅行の泊数

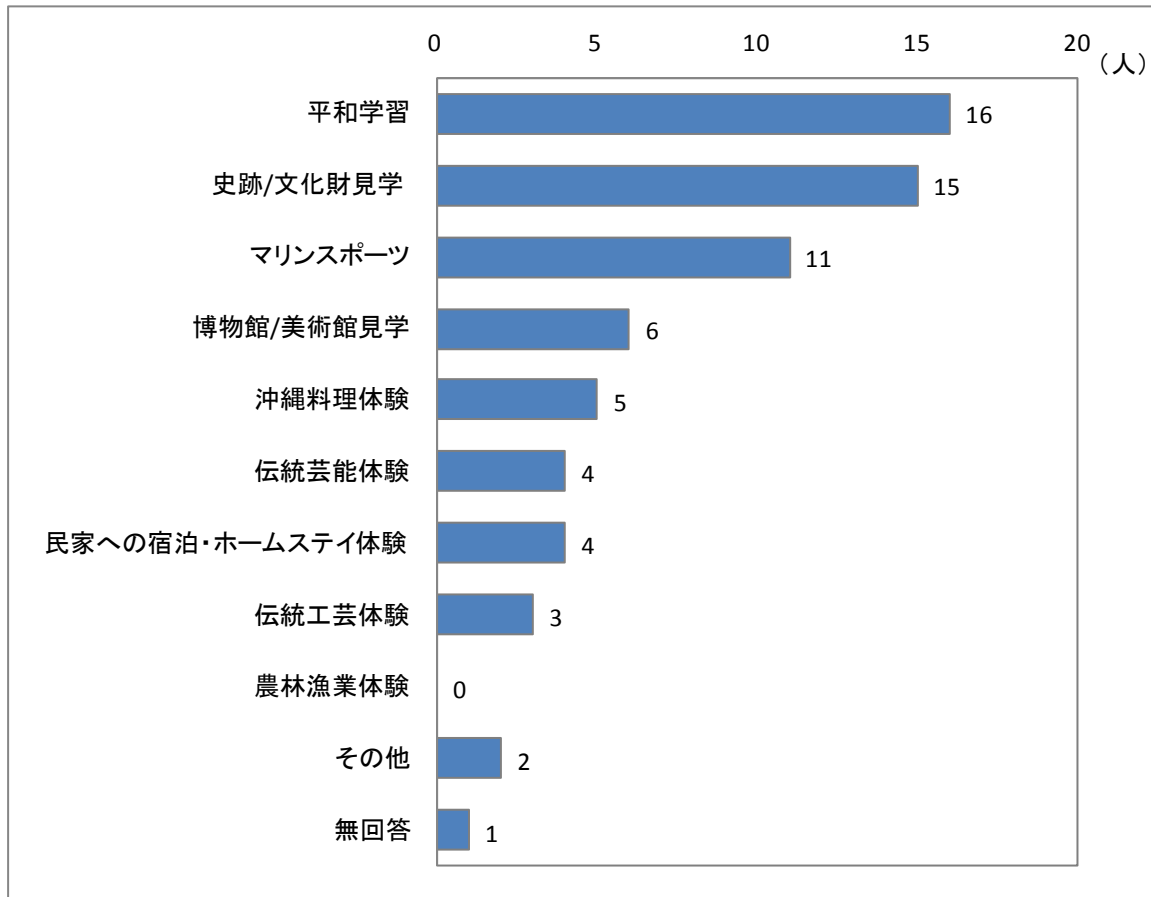


図表 V-1-9 修学旅行で訪れた地域（複数回答）

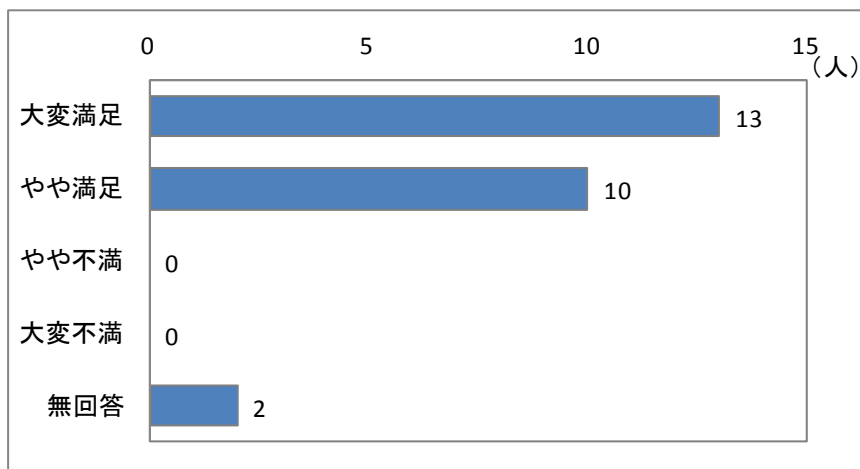


修学旅行中の活動については半数以上に当たる 16 人が「平和学習」をあげ、「史跡/文化財見学」や「マリンスポーツ」という回答がこれに続いた。また、修学旅行の満足度については半数以上が「大変満足」と答えており、総じて修学旅行に対する満足度は高かった。

図表 V-1-10 修学旅行で行った活動（複数回答）



図表 V-1-11 修学旅行で訪れた地域（複数回答）



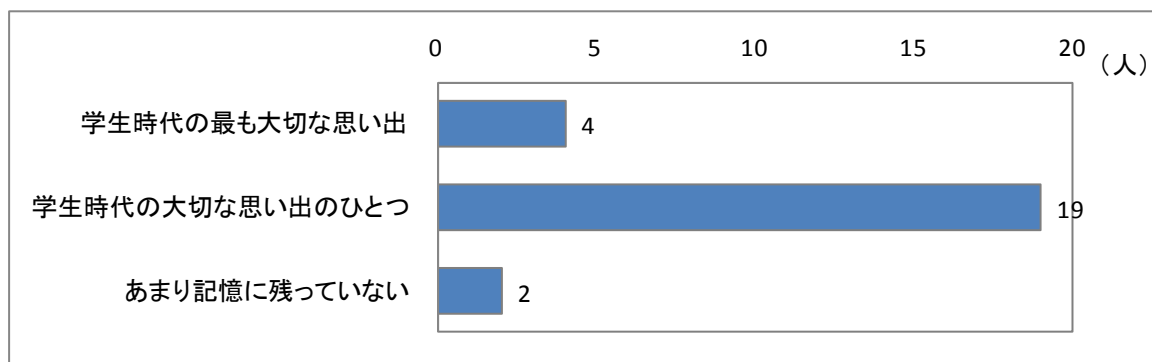
修学旅行で印象に残っている出来事や楽しかったこと3つを自由回答で聞いたところ、「美ら海水族館」に関する回答が最も多く、次いで「ひめゆりの塔」や「ホームステイ」に関する回答が多かった。一方、修学旅行に対する思いについては「学生時代の大切な思い出のひとつ」という答えが突出する結果となった。修学旅行をしてから日の浅い若年層が比較的多かったこともあり、参加者の多くは今なお修学旅行の関する記憶を一定程度持っていることが明らかになった。

図表 V-1-1 2 修学旅行で印象に残っている出来事や楽しかったこと（自由回答）

分類	自由回答
美ら海水族館	美ら海水族館
	美ら海水族館に行ってイルカのショーを観たり、ビーチに行って遊んだ
	美ら海水族館に行った、ショーを観た
	美ら海水族館
	美ら海水族館のきれいさ、とても広々としているところ、魚などの豊富さに感動した
	美ら海水族館での観光
	美ら海水族館でジンベイザメをナイスアングルで写真に残せたこと
	美ら海水族館
ひめゆりの塔	ひめゆりの塔や平和祈念公園などでの平和学習
	ひめゆりの塔
	ひめゆりの塔
	ひめゆりの塔
	ひめゆりの塔や防空壕に入り、沖縄戦について詳しく学んだこと
ホームステイ体験	ホームステイ先でのボーリング、ショッピング
	ホームステイ
	米軍基地へのホームステイ
	アメリカ軍基地へのホームステイ
	ホームビジット
沖縄料理	沖縄料理
	沖縄料理
	ホテルでの食事
	沖縄料理がおいしかった
	沖縄料理
海	海がきれい
	海で遊んだこと
	海に行ってはしゃいで楽しかった
	海がとてもきれいだった
	きれいな海でバレーボール(ビーチバレー)をしたこと
首里城	首里城が日本ではないみたいで、印象的だった
	首里城
	首里城
平和体験	戦争
	壕での平和学習
	戦争体験の話
ホテル	カヌチャベイリゾートでの宿泊
	ホテル
	カヌチャベイホテルの宿泊
サイクリング	離島サイクリング
	舟に乗って島に行き、サイクリングした(雨の中だったので印象に残っている)
	サイクリング

分類	自由回答
気候	気候
	暖かい気候
	全体的に穏やか
ハブとマン グース	ハブとマングース
	ハブとマングース
国際通り	国際通りに行って沖縄らしさ、賑やかさを感じ、お土産をたくさん買った
	国際通りでの自由時間
民族衣装	民族衣装を着て写真を撮ったこと
	沖縄の民族衣装みたいな物を着て、記念撮影をした
景色	景色がきれい
	海や風景
クラスの催し	クラスごとの出し物
	ホテル内の宴会場で、クラス毎に出し物をしたこと
その他	琉球ガラス村でのコップ作り体験
	ウミヘビがいた
	ガマに行って体験をした
	台風で1泊伸びた
	おきなわワールドでの鍾乳洞見学
	米軍基地見学
	友達との時間
	飛行機
	夜の自由時間
	インフルエンザ
	最終日自由行動
	朝練(野球)

図表 V-1-1-3 修学旅行に対する思い（単数回答）



修学旅行以降の沖縄への来訪経験では、来訪経験が「ある」が14人、「ない」が11人となった。来訪経験が「ある」と答えた人の来訪回数では「2回」が最も多く6人、次いで「1回」が4人となった。また「ない」と回答した人に「沖縄を訪問したいと思ったことがあるか」をたずねたところ、全員が「行きたいと思ったことがある」と回答し、「具体的に計画したことがある」は1人もいなかった。沖縄への修学旅行を通じて沖縄への再訪意向が一定程度生まれているものの、実際に同地を訪れる強い動機づけやきっかけが不足していることが示唆される。

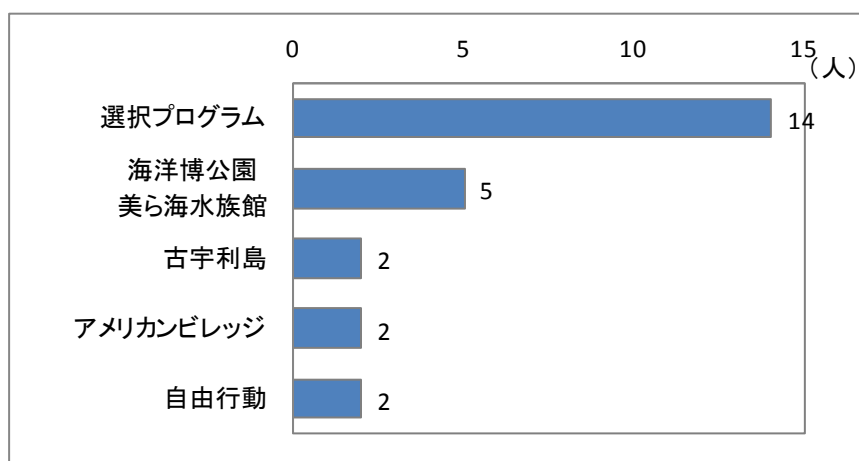
図表 V-1-14 修学旅行以降の沖縄来訪経験の有無（単数回答）

訪問経験	回答者数(人)	(「ある」と回答した人) 訪問回数	回答者数(人)
ある	14	1回	4
ない	11	2回	6
		3回	3
		4回	0
		5回	0
		6回	1

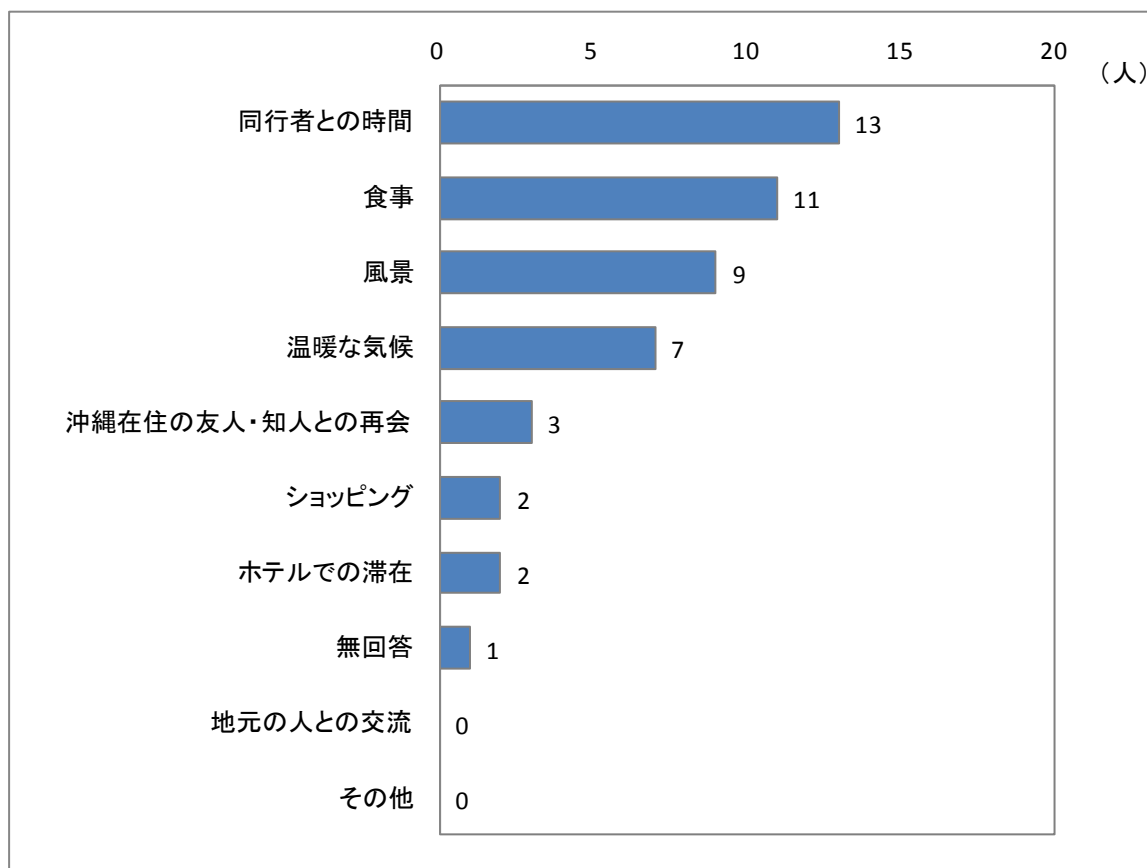
(「ない」と回答した人) 沖縄を訪問したいと思ったか	回答者数(人)
具体的に計画したことがある	0
行きたいと思ったことがある	11
行きたいと思ったことはない	0

本モニターツアーに参加するにあたり最も楽しみにしているプログラムを聞いたところ2日目の「選択プログラム」を選んだ人が14人と最も多く、次いで「海洋公園美ら海水族館」が5人となった。旅程表にあるプログラム以外に楽しみにしていることについては、半数以上の13人が「同行者との時間」と回答し、「食事」の11人、「風景」の9人がこれに続く結果となった。

図表 V-1-15 モニターツアーで最も楽しみにしているプログラム（単数回答）

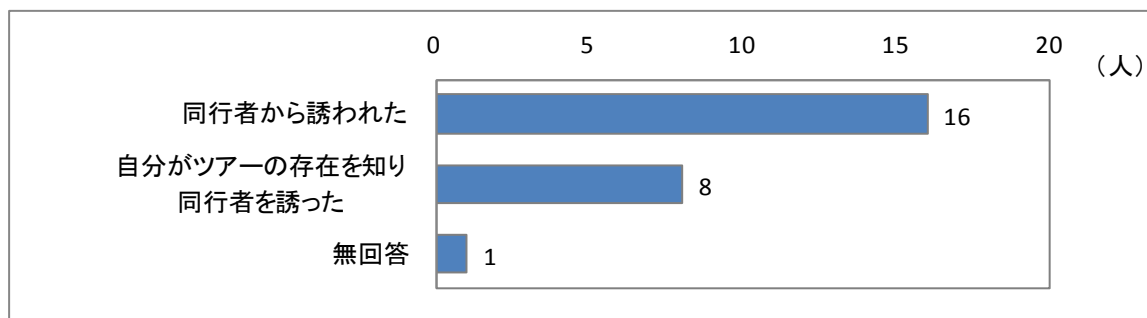


図表 V-1-16 モニターツアーで最も楽しみにしているプログラム（単数回答）

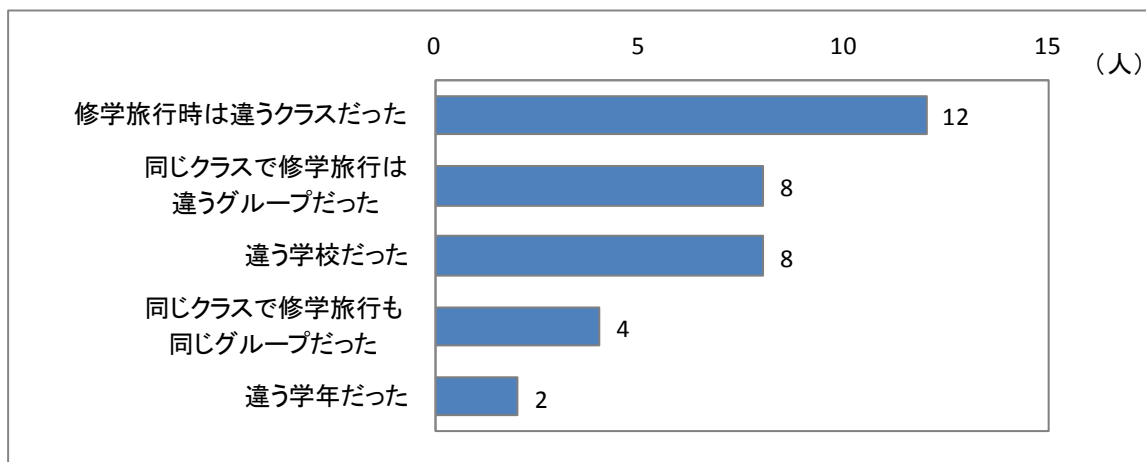


一方、本モニターツアーに参加した経緯については「同行者から誘われた」が16人となり、「自分がツアーの存在を知り同行者を誘った」の8人を大きく上回る結果となった。また、同行者との関係について聞いたところ、「修学旅行時は違うクラスだった」が12人で最も多く、「同じクラスで修学旅行は違うグループだった」、「違う学校だった」がそれぞれ8人でこれに続いた。同行者と会う頻度については最多の12人が「日常的に会っている」と答えており、今回の同行者との宿泊旅行経験の有無についても16人が「ある」と答えていることから、参加者の多くが修学旅行時より現在の関係を重視して同行者を選んでいることがうかがえる。

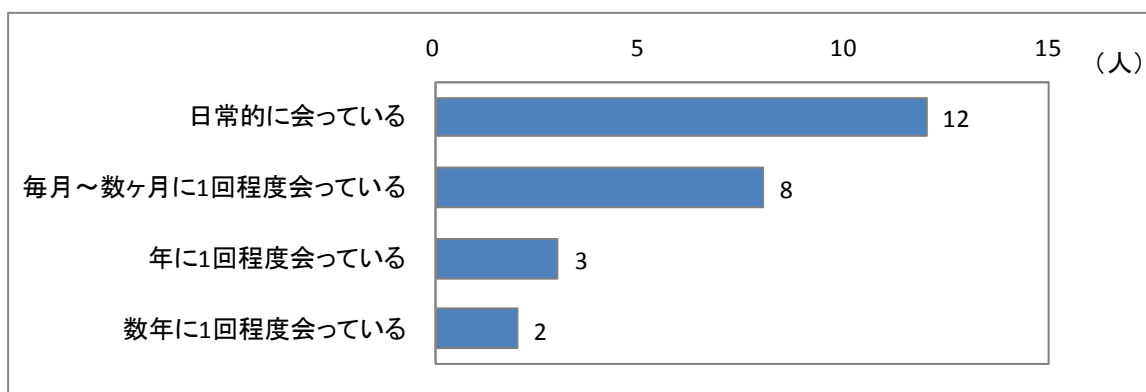
図表 V-1-17 ツアーへの参加経緯（単数回答）



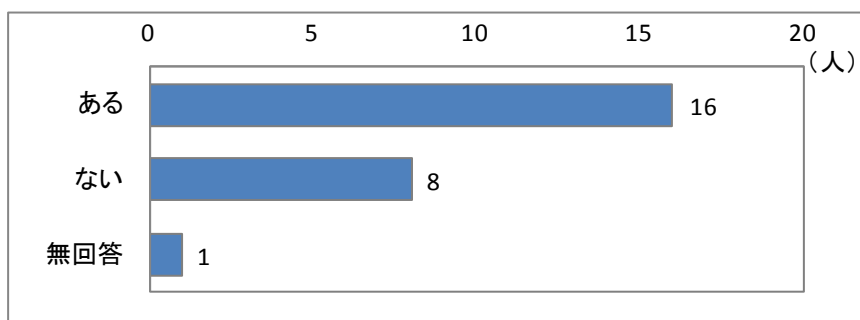
図表 V-1-18 モニターツアーへの同行者との関係（複数回答）



図表 V-1-19 モニターツアーへの同行者と会う頻度（単数回答）



図表 V-1-20 モニターツアーへの同行者との宿泊旅行経験（単数回答）



(5) 事後アンケート調査

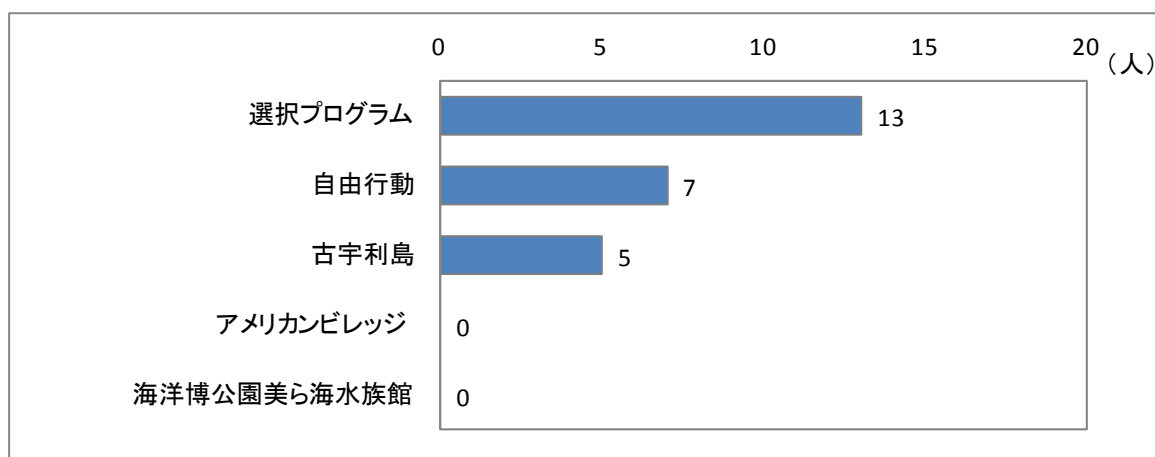
本モニターツアーの参加者を対象にモニターツアーの最終日にアンケート調査を行った。

調査方法	ツアー最終日の那覇空港にて出発前に調査票を配布・回収
調査項目	・ツアーで良かったプログラムとその理由、印象に残ったこと ・同様のツアーを実施する際の改善点 ・ツアー参加前後での変化、満足度 ・沖縄への再訪意向
調査対象	モニターツアー参加者
回収数	25人

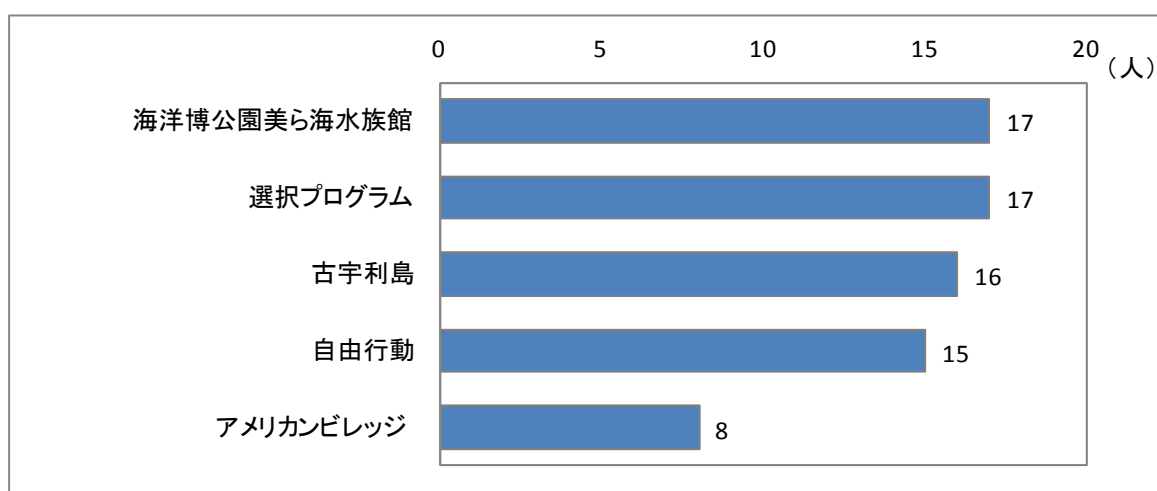
① アンケート結果

2泊3日の行程の中で参加者の半数以上にあたる13人が「最も良かったプログラム」としてあげたのは「選択制プログラム」であった。特にホエールウォッチングは天候にも恵まれ、間近で迫力あるクジラの姿を見られたことから、「最も印象に残ったこと」に関する設問でも言及する人が多かった。また「海洋博公園美ら海水族館」は、「最も良かったプログラム」（単一回答）としてあげる人はいなかったものの、17人が「良かったプログラム」の一つとしてあげており、修学旅行等で過去に訪れたことがある旅行者にとっても同施設が一定以上の訴求力を有していることがうかがえる。

図表 V-1-2 1 最も良かったプログラム（単数回答）



図表 V-1-2 2 モニターツアーで良かったプログラム（複数回答）



図表 V-1-2 3 最も良かったプログラムの理由（自由回答）

最も良かったプログラム	理由
ホエールウォッチング	初めてクジラを見ることができたから
	感動的だった
	あれだけダイナミックな姿を、何回も生でみられたのは嬉しかった
	初めてクジラを見ることができたので
	初体験であり、貴重なクジラを見られたため
	ホエールを初めて見たから
	滅多にできない経験ができたから。クジラに感動しました
	初めてクジラを見られて感動したため
	初めての体験だったから
ホエールウォッチング、とても興奮したので	
自由行動	タクシーでの移動がよかったから
	タクシーでの観光が楽でよかった
	高校時代を思い出した
	好きなようにまわれたから
	タクシーを自由に使えたので、移動しやすかった
	タクシー運転手の知識量
古宇利島	オキナワワールドに行きたかったから
	海がとてもきれいで、ずっと見ていたい気持ちになったため
	海がきれいだったから
	海がとてもきれいだった(初めてだったので)
	自由時間もちょうどよかった
久高島	きれいだったし、ゆっくりできた。
	自分では行こうと思わないから
	のんびりできたから
	島での自由時間でサイクリングをしたのがとても楽しかった。なかなか島に行く機会がないから

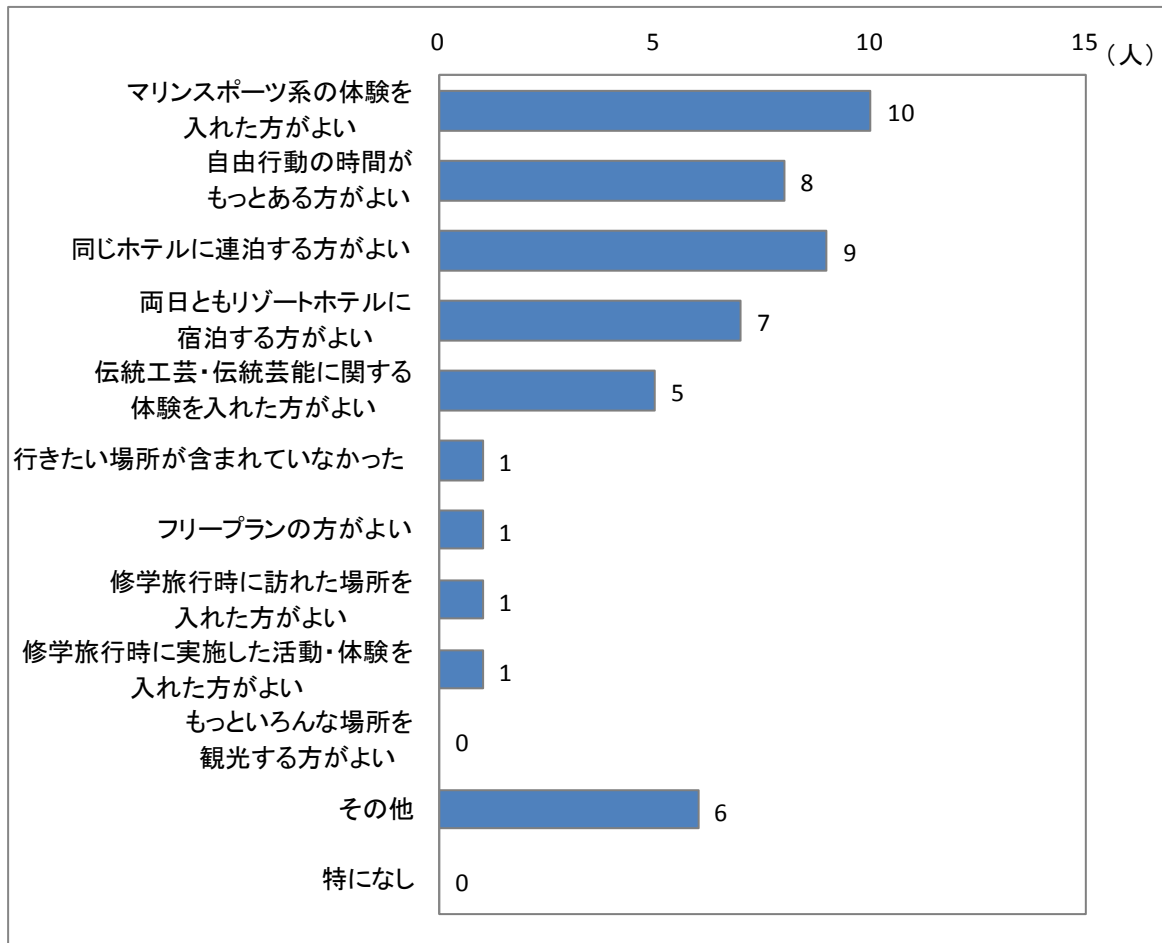
また、「最も印象に残ったこと」として「久高島のガイド」や「バスガイド」など人に関する要素をあげた人が多かったことも特徴的な結果である。本モニターツアーでは多くの参加者がガイド等を通じてこれまであまり認識していなかった沖縄の人の魅力に触れたと話しており、修学旅行で来訪した際には気づかなかった魅力が参加者に大きなインパクトを残したことが示唆される。

図表 V-1-24 モニターツアーで最も印象に残ったこと（自由回答）

自由回答
ホエールウォッチングでクジラを見られたこと、古大家での昼食は昼食会場として、とても沖縄らしい感じでよかったです
オキナワマリ奥特リゾート&スパでの宿泊がとてもよかったです。景観も設備も内装もよく、リゾート気分を味わえました
2日目のホエールウォッチング、船酔いの不安があったが、それさえなければ広大な海とクジラをととても近くで出会えるというなかなか珍しい体験もすることができて、とても満足しました
高校時代の友人と、また一緒に沖縄を訪れることができ、当時の思い出を振り返りながら、様々な場所を見て回ることができたのがよかった。またホエールウォッチングは、間近でクジラと接することができたので感動した
沖縄料理がうまかった。ホエールウォッチングのクジラに感動した
ガイドさんの話。ホエールウォッチング。マリ奥特ホテルの食事（おいしかった）
ガイドさんが修学旅行風？にいろいろ上手にご案内してくださったこと。ホエールウォッチングは非常に貴重な体験となった
久高島でのレンタサイクル。みんなで景色のいいところで写真撮影ができて満足
1日目のホテルがきれいだった。ツアー人数が丁度よくて、行動しやすかった
久高島のガイド
観光地以外の普通の沖縄に住んでいる人が行くような所に行って、食事したりできたので楽しかったです
久高島に行く際の高速船が思った以上に激しくて、アトラクションみたいで面白かった
古宇利島の海がとてもきれいだったこと
ホテル、豪華だった点（初日）。食事、バイキング形式がよかった
学生時代の友人と久しぶりに会い、長い時間を日常とはまったく異なる環境下で過ごし、会話（昔話など）もたくさんすることができ、非常に印象に残った
学生時代の友人と久しぶりにゆっくり話せたこと。当時の思い出話ができること。ホエールウォッチングなど、当時できなかったプログラムを体験できたこと
昔の仲間との久しぶりの旅行。ホエールウォッチング、変に観光地化（パッケージ化）されておらず、「大人の遊び」的な楽しさがあった
ツアーの皆さんと協力してBBQをやったこと。海もあったので、ビーサンなどを持って海に入りたかったなと思いましたが、お肉もおいしかったし、素直に楽しかったです。もう少し時間がほしかったなと思いました
ホエールウォッチングです。ツアーでなければ行かれなかった気がします。野生のクジラをあんなに近くで見られたことにすごく感動したし、貴重な経験でした。船の方々もとても親切で楽しいツアーでした
船に乗ってホエールウォッチングに行ったのが印象に残りました。初めてクジラを見て興奮しました。また行ったときに波もあまりなく、天候もよかったのでよかったです。逆に天候が悪かったら、少しきついなと思いました
沖縄の風景に感動した
オキナワマリ奥特リゾート&スパで、ゆっくりできたこと。また、夕食、朝食おいしかったです
沖縄という共通の興味を持ったツアー参加者同士なので、うちとけやすかった。いろいろな体験ができてよかった
ホエールウォッチング、こんな機会でなければ、こんな安価でホエールウォッチングできないし、クジラの拍手？もあまり見られない体験だったと思うので。初体験でした
ホテルが綺麗だった。景色が良かった。中華料理が美味しかった。

一方、モニターツアーの改善点については、「マリンスポーツ系の体験を入れた方がよい」、「自由行動の時間がもっとある方がよい」、「同じホテルに連泊する方がよい」といった答えが多かった。ただし若年層の割合が高い参加者の中で「フリープランの方がよい」を選択した人は1人に留まっており、バスでの団体ツアーや選択式ツアーが一定の支持が得ていることが分かる。

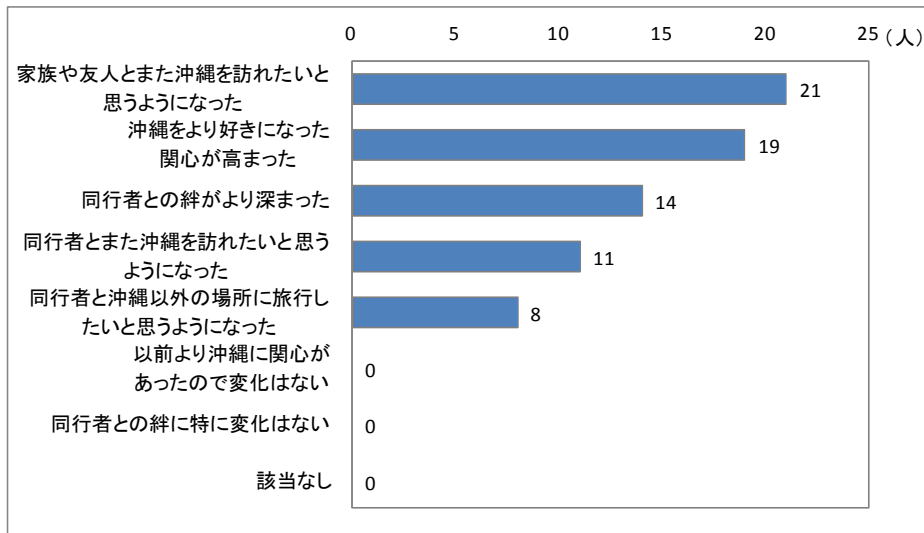
図表 V-1-2 5 同様のツアーを行う際に改善した方がよいと思うこと



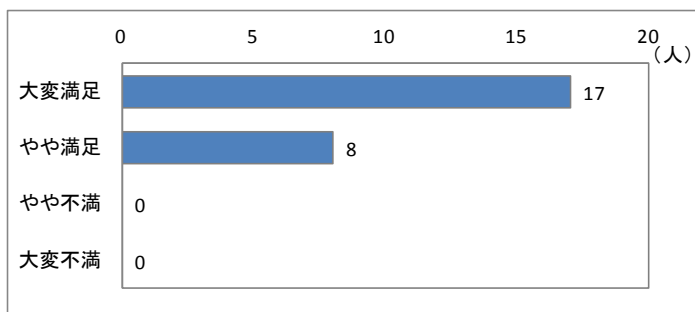
「その他」自由回答
自由行動を2日目にした方が時間を有効に使えると思う
2泊3日は少ない
場所によって少し滞在時間が少ないと感じるところがあった
スポーツ全般(ゴルフ等)
現地の方とのふれ合い。おじーおばーの話を聞くとか
2日間とも北部の方だったので、南部にも少しバスガイドさん付きで行って見たかったです。ツアーなら集合写真的な物も撮りたかったです

また、今回のモニターツアーによる変化を尋ねた質問では25人の参加者のうち実に21人が「家族や友人とまた沖縄を訪れたいと思うようになった」と回答しており、5年以内の再訪意向についても参加者全員が「1回」以上と答えている。参加者の満足度を更に高め、具体的な再訪のきっかけとするには旅程内容等について改善の余地を残すものの、本ツアーのような企画がリピーター創造に一定の効果を有することが示唆される結果となった。

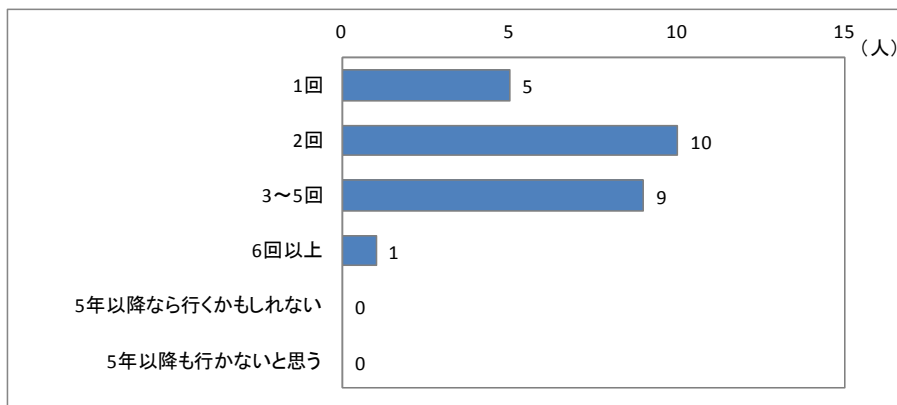
図表 V-1-26 モニターツアーを通じて旅行前と比べて変化したこと



図表 V-1-27 モニターツアーの満足度 (単数回答)



図表 V-1-28 今後5年間の再訪意向 (単数回答)



(6) グループインタビュー

本モニターツアーの参加者を対象に最終日にグループインタビューを実施した。

調査方法	アンケートを基にしたグループ別インタビュー
調査項目	・ ツアーの感想、印象に残ったこと、改善点 ・ 修学旅行時の思い出や当時の仲間とのつながり ・ 沖縄の訪問経験、再訪意向
調査対象	モニターツアー参加者
回収数	24人

① グループインタビューコメント概要

【ツアーの感想、印象に残ったことなど】

- ・ 海の色が非常にきれいで、改めて沖縄の素晴らしさを知った (30代/女性)
- ・ 修学旅行でも訪れたが美ら海水族館をもう一度訪れたいと思っていた (30代/女性)
- ・ ホテルが非常に良かった。もっとホテルでゆっくりしたかった (30代/女性)
- ・ バスの団体ツアーは年配の人の旅行というイメージがあったが、ガイドさんが非常によかったこともあり、純粋にバスツアーが楽しかった (30代/男性)
- ・ 古宇利島を初めて訪れて海の色に感動したが、バスツアーでなければ行けなかったと思う。その意味でもバスガイドさんが乗車したバスツアーというのは修学旅行以来だったが、非常に良かった (30代/女性)
- ・ 久高島のガイドさんが良かった。修学旅行の際に聞いてもあまり興味を持たなかったかもしれないが、ガイドさんの話が非常に興味深かった (20代/男性)
- ・ ホエールウォッチングはあれほど近くでクジラを見られるとは思っていなかったので非常に良かった (30代/女性)
- ・ 完全にフリープランでも行き先選びに迷ってしまうので、今回のようなバランスがちょうど良かった。バスツアーは意外に楽しめた (30代/男性)
- ・ ガイドさんから沖縄の歴史や伝統、地元の習慣などを聞いて良かった。特にバスガイドさんは非常に良かった (20代/女性)
- ・ 沖縄には頻繁に来るが、殆どがビジネス目的かフリープランの観光旅行だった。ツアーというのも便利で良いと思った (40代/男性)
- ・ とにかくガイドさんが良かった。話し方も上手で知識も豊富で非常に満足した (30代/女性)
- ・ 「やっぱりいいな」というのが率直な感想だった。高校の同級生と旅行をするというのも新鮮で良かった。普段は都内で飲みに行くことが殆どだが、レンタカーで島内をめぐったり、昼食を食べたり、非常に楽しかった (30代/男性)

【ツアーの改善点など】

- ・ バסטツアー、選択制プログラム、自由行動の3つが入っているのは非常に良かったが、自由行動を中日にしてほしかった。最終日だと実質半日しか動けずやや物足りない (30代/男性)
- ・ 初日のホテルが非常に良かったこともあるが連泊が楽だと思う。ただ移動を考えると連泊が難しいのも理解できる (30代/女性)
- ・ 充実した行程だったがその分移動時間が長かった。移動時間を楽しませる工夫などがあると退屈しないと思う (40代/男性)
- ・ 時期的に難しいのかもしれないがマリンスポーツを入れてほしかった (10代/男性)
- ・ 2泊だけでは短い。4泊くらいはしたいし、多少高くても金額に見合うだけの価値はあると思う (20代/男性)
- ・ 良いスポットを知る良いきっかけにはなったが、一つひとつの時間が短すぎた (30代/男性)
- ・ もう少しゆっくりしたいと感じた。特に美ら海水族館はゆっくり見たかった (30代/女性)

【修学旅行時の仲間や当時の思い出】

- ・ 修学旅行の際に地元の人から聞いた話と言えは戦争体験に関するものしか覚えていなかったが、今回バスガイドさんや観光タクシーの運転手さんなどから文化や歴史など幅広い話を聞けて非常に興味深かった (20代/女性)
- ・ アメリカンビレッジのビーチに行った際に、修学旅行でも同地を訪れたことを思い出して感慨深かった。自分が変わったのかもしれないが沖縄も当時と変わった気がする。修学旅行で来たという懐かしさと新鮮さが両方感じられた (40代/男性)
- ・ 修学旅行当時とは考え方や好みも変わっており、修学旅行で訪れた美ら海水族館や国際通りも十分楽しめた (20代/男性)
- ・ Facebook や Line などでも300人近い同級生の殆どと繋がりがあがる。今回も30人ほどに声をかけたが「時間さえあれば行きたい」という答えが殆どだった (20代/女性)
- ・ 修学旅行で琉球ガラス細工づくりを体験したが、そこにもう一度行きたかった。当時はあまり興味がなかったが、今は伝統工芸などに関心がある (20代/女性)

【モニターツアーへの参加と沖縄への再訪意向】

- ・ 沖縄には行きたいと思っていたが2月に行くという考えはなかった。こんなに暖かいとは知らなかった。暑すぎず、ピークシーズンのように人が多いわけでもなく、丁度良かった。是非2月にまたゆっくり来たい (30代/女性)
- ・ 修学旅行でもマリンスポーツをできなかったのが次回は是非やってみたい (30代/女性)
- ・ 2月の気候が温暖でびっくりした。次回は是非家族と来たいと思う (30代/男性)
- ・ 同級生と沖縄旅行というコンセプトは面白いと感じたが、家族を残して旅行に行くのは現実的には難しい (30代/男性)
- ・ 今回はなかったが同級生でゴルフやダイビングを楽しむ沖縄旅行も面白そうだが、そういったツアーが目にとまるのがまずい。どうしても家族、特に子供が中心になってしまう。次回は家族同士で来てほしいと感じた (30代/男性)

- ・ モニターツアーということでかなりお得になっていると思うが、今回くらい内容が充実していたら高くても来たいと思う (20代/女性)
- ・ 次回もまたホエールウォッチングをしに来たいと思う (30代/女性)
- ・ 卒業旅行やアルバイトなどの時期を外せば、来たいと言う友達が多いと思う。次回は是非別の友達も連れて来たい (20代/男性)



▲グループインタビューの様子

② 結果総括

「もう少しゆっくりしたいと感じた」、「自由行動を中日にしてほしかった」等の意見はあったものの、本モニターツアーへの評価は総じて高く、再来訪の意向に言及する参加者も多かった。

高評価の要因としては、ツアーの行程が充実しており個別のプログラムやガイドの質が高かったことに加え、本モニターツアーという企画への参加を通じて参加者がこれまで知らなかった沖縄の新たな魅力に触れる機会を得たことがあげられる。ツアー行程については「沖縄修学旅行経験者調査」の結果等を踏まえ、修学旅行の定番と修学旅行ではあまり訪れない立ち寄り先スポットの双方を含むものとしたことが結果的に参加者の満足に繋がり、更にツアーを通じて様々な場所を訪れ、体験活動等を行う中で、参加者が沖縄の魅力を再認識したことが沖縄に対するイメージや次回の再訪意向にプラスの影響を与えたことが、グループインタビューから明らかになった。

特に沖縄への修学旅行経験が同地への再訪意向や現在の旅行実態に及ぼす影響を考えた場合、本モニターツアーが参加者に対して沖縄の魅力を再発見する機会を提供することとなった点は興味深い。参加者からは「2月の気候が温暖でびっくりした」、「古宇利島を初めて訪れて海の色に感動した」といった声が聞かれたが、仮に参加者が自ら旅行を企画していたら知られることのない2月の気候や古宇利島といった魅力が本モニターツアーを通じて伝わり、参加者の再訪意向に好影響をもたらしたことは、こうした企画が沖縄への修学旅行経験者が沖縄再訪の動機を発見する方法として有効であることを示唆している。

その点、今回のモニターツアーでバスによる団体ツアーや選択制ツアーが好評を得たことも興味深い。通常、団体ツアーや非フリープランタイプのパッケージ旅行は若年層を中心にニーズが低いと考えられがちだが、「バスツアーは意外に楽しめた」、「古宇利島にはバスツアーでなければ行かなかったと思う」、「久高島のガイドさんが良かった」という意見からも分かるとおり、今回のモニターツアーでは修学旅行とは違う沖縄の魅力を発見する仕掛けとして機能した。今後はリーダーの創造・定着を促すきっかけづくりという切り口からバスツアーや選択制ツアーの有効性を検証することも重要である。

1-3. まとめ

Ⅲ章で述べたように、沖縄修学旅行の経験者数の累計は約 670 万人にも上る。そのうちの約半数が今後 5 年以内に沖縄を再訪したいと回答している。本事業の目的であるリピートを促進するためには再訪意向率を上げるとともに、再訪意向を示している人に実際に沖縄を訪れてもらうアクションを起こしてもらうことが必要となる。

そのため、今回は“修学旅行をもう一度”というコンセプトで、沖縄に修学旅行に行った人を対象としてモニターツアーを実施し、効果検証を行った。

ツアーの満足度は非常に高く、再訪意向も高い結果となった。今回の行程は 2 日目が選択制の観光、3 日目は自由行動であったが、ほとんどの人が修学旅行で行っていない場所を選択した。アンケートでも、修学旅行で行かなかった場所を巡りたいという意見が多く見られた。そしてその結果、修学旅行の時には知らなかった沖縄の魅力を知ることが出来たという声が多く挙がった。Ⅲ章のアンケート結果で修学旅行の行程の短さが課題として挙がったとおり、修学旅行で知る沖縄はごく一部であり、沖縄の魅力を十分に認知させるためには実際にもう一度沖縄を訪れてもらう必要があることが今回のモニターツアーで明らかとなった。

“修学旅行をもう一度”というコンセプトに従って、今回は沖縄修学旅行を経験した同級生同士のグループを対象としたが、実際は修学旅行時に同じ行程を廻った仲間ではなく、それ以外で親しくしている同級生と参加した人がほとんどであった。意見交換会では「同級生同士で旅行する機会がこれまでなかったので、いいきっかけだった」という声が多く挙がっており、背中を後押しすることには一定の効果があると考えられる。ただ、実際に商品造成をする場合には“修学旅行をもう一度”というコンセプトとするよりも、ツアー申込みの際に、沖縄修学旅行経験者が参加すると特典がある、または経験者の人数に応じて割引が受けられるといったような、修学旅行がツアー参加の後押しとなるような仕掛けをする方が有効であると考えられる。

今回のモニターツアーの参加者は 20 代、30 代の参加者で占められた。家族を持つ参加者は「同級生同士の旅行は新鮮」であるとしつつも、実際に旅行に行くとなると家族で行くことを第一に考えると回答していた。それに対し 20 代の参加者は SNS で多くの同級生とつながっており、今回のモニターツアーも「日程が合えばもっと多くの同級生が参加した」と回答していた。この結果からも、修学旅行をきっかけとした再訪促進は 20 代の若年層を中心に行うことが有効であり、プロモーションにも SNS を活用することで効果が期待できると見られる。

もう一点、特筆すべき点として挙げられるのはバスツアーに対する高評価である。今回のモニターツアーの満足した点として多くの参加者がバスツアーを挙げていた。「バスの団体ツアーでなければ古宇利島には行かなかったと思うが、海の色がきれいで本当に良かった」等の話が参加者より寄せられており、バスによる団体ツアーがこれまで知らなかった沖縄の新しい魅力やお気に入りの場所を発見する上で大きな役割を果たしたことが分かる。

これは、修学旅行の経験有無を問わず、ライトリピーターに適用できるものと考えられる。ライトリピーターの 6 割以上がフリープラン、または個人手配で沖縄を訪れており（Ⅱ章参照）、バスツアーのニーズは顕在化していないが、潜在的なニーズは十分にあるということが明らかとなった。フリープランでも気軽に参加出来るような観光バスツアーのメニューを充実させる、少人

数で参加出来るようにするなど、団体バスツアーへの抵抗感を弱めるような工夫をすることで、参加率を向上させることができれば、旅行の満足度の向上にもつながり、ひいては再訪に結びつくことが期待できる。

【本実証事業の結果から得られた修学旅行経験者リピーター化のポイント】

- ・ 修学旅行は沖縄の多様な魅力の一部を伝えているに過ぎず、修学旅行だけでは味わえない沖縄の魅力を体感する機会を提供する仕組みが必要
- ・ 今回のモニターツアーは同級生で行くいいきっかけだったという声が挙がった一方、修学旅行時に一緒だったメンバーと参加した人はいなかったことから「修学旅行プレイバック」ではなく、修学旅行が来訪を後押しするような仕掛けづくりが必要
- ・ 若年層は Facebook 等の SNS によって相当規模の同級生と日常的に連絡をとることが可能である。
- ・ SNS を活用した同級生コミュニティ等への直接的なプロモーションが修学旅行経験者のリピーター化には一定の効果を持つと考えられる。
- ・ バスによる団体ツアーが好評であり、沖縄の新しい魅力を発見する場を提供する仕掛けとして機能
- ・ 団体バスツアーへの抵抗感を弱めることができれば、修学旅行経験者に限らず、若年層のリピーター化促進に寄与する有効な施策として期待できる。

